

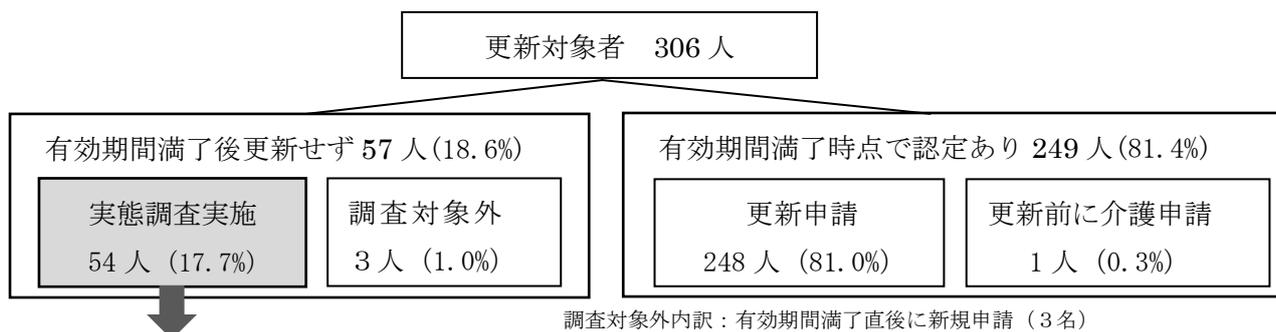
令和6年度介護サービス未利用者の定期的な実態把握結果報告

1 調査期間

令和6年4月から令和7年3月まで

2 調査対象者及び調査時期

前回の介護度が要支援1・2の介護サービス未利用者。令和6年5月末から令和7年4月末に要介護認定の有効期間満了を迎える更新時に、更新申請を行わなかった者に対し在宅介護・地域包括支援センター職員が訪問または電話にて実態把握を行った。



3 調査項目及び調査結果

	質問項目	はい	いいえ
1	1. この1年間の体調変化がありましたか	5人(9.3%)	49人(90.7%)
2	1で「はい」と答えられた方→それはどのようなことですか ・腰椎圧迫骨折がよくなった(80代前半男性) ・腰痛治療中に直腸脱(80代前半男性) ・階段転落し腰椎圧迫骨折(80代前半女性) ・リウマチの悪化(70代後半女性) ・良い方へ変わった(70代後半女性) ・左肩腱板断裂にて肩の痛み(80代前半女性)		
3	身の回りのことをご自身でできますか	54人(100.0%)	0人(0.0%)
4	世帯構成	ひとり 19人(35.2%) 高齢者のみ 16人(29.6%) その他 19人(35.2%)	
5	生活のお手伝いをしてくれる人はいますか	48人(88.9%)	6人(11.1%)
6	15分くらい続けて歩いていますか	54人(100.0%)	0人(0.0%)
7	週に1回以上は外出していますか	54人(100.0%)	0人(0.0%)
8	普段就労や介護予防事業等に参加している場合該当するものに○をつけてください 内訳(複数回答あり): 就労5人、テンミリオンハウス5人、地域健康クラブ1人、不老体操1人、民間スポーツクラブ4人、コミュニティセンターの活動3人、総合体育館講座1人 その他13人(内訳: フラワーアレンジメント1人、電話相談員1人、メディカルフィットネスの体操1人、華道・茶道の講師1人、カーブス週3回1人、社交ダンス1人、市民講座1人、老人クラブ1人、コーラス2人、友人との交流1人、落語1人、卓球1人)	該当する 33人(実人数25人、46.3%)	
9	日常生活の中で、気になるような物忘れがありますか	6人(11.1%)	48人(88.9%)
10	体調が悪い時や災害時などに、手助けしてくれる家族や親戚、知人等がいますか(11は緊急連絡先記入)	52人(96.3%)	2人(3.7%)

12	定期的に通院をしていますか（13は通院先記入）	50人（92.6%）	4人（7.4%）
14	定期的に内服薬を処方されていますか	46人（85.2%）	8人（14.8%）

4 次回の訪問時期

区分	訪問時期	人数（割合）	訪問時期の判断の理由
A	1か月後	0人（0.0%）	
B	3か月後	1人（1.9%）	・精神面で医療的支援を受けている
C	6か月後	1人（1.9%）	・昨年1月の術後回復が不十分
D	1年後	5人（9.2%）	・病状の経過観察が必要 1人 ・定期通院なし 4人
E	実態把握終了	47人（87.0%）	

5 訪問時の対応

訪問時、51人の調査対象者に「在宅介護・地域包括支援センターの連絡先」を周知した。22人には「レスキューヘルパー（高齢者緊急訪問介護）事業」、19人には「高齢者安心コール事業」の案内を行った。

6 実態把握後新規申請状況

実態把握を行った人のうち、調査実施後要介護認定申請に至った人は3人（5.6%）だった。

申請理由および認定結果内訳：

- ・腰椎圧迫骨折痛の再発。要支援2と認定。
- ・難聴になり電話対応不可。要支援1と認定。
- ・転倒し腰椎圧迫骨折。要介護1と認定。

7 令和6年度の傾向と課題

今年度は前年の令和5年度と比較して更新対象者が399人から306人になり、実態把握件数が70人から54人に減少した。これは「新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取扱いについて（その4）」（令和2年4月7日厚生労働省老健局老人保健事務連絡）に基づく有効期間延長の対応が令和4年度で終了した直後（令和5年4月～令和6年3月）の1年間は処理すべき更新申請の件数が増大したが令和6年4月からは通常件数に戻ってきたことが影響している。

就労や介護予防事業等に参加している人の割合は昨年の44.3%から46.3%と増加傾向で5割近くの人が活動している事が分かった。

実態把握後新規申請に至った人は5.5%で、その申請理由が転倒・骨折の他難聴により日常生活の維持が困難になっていた。

今後もサービス未利用者の実態把握を定期的に行うことで、重度化する前に要介護リスクを発見し適切に介入が行える体制をつくるとともに、その生活実態からフレイル及び補聴器購入補助など難聴への予防的取り組みのヒントを得て、年齢を重ねても自立した生活を営み、語り合える仲間（＝地域）づくりができるよう対象者に働きかけていく。